

グローバル人材とは打って出れる人

—まずは言語習得を—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今日は、これからの社会で求められる人材とは何か、これからの社会で求められる能力(スキル)とは何かについてお話をさせていただきたいと思います。

2. 現代は、皆様ご承知のようにグローバル化社会ですので、打って出る人材が必要だと思います。では、打って出る人材とはどういうことか。日本国内は人口の減少や円高で外国への輸出が非常に大変な状況ですので、外国でものをつくったり、外国でものやサービスを販売したりしてくださる方、つまり打って出る人材がいると一番よいと思います。製造業であれば、日本以外の場所に工場を作ったり販売拠点を持ったりすることが大切だと言われています。また、サービス産業についても、例えば、今、栃木県にあるお店を外国に出店すればよいのではないかという考えもあります。そのときに一番大事なことは、誰がそこに行くのかということです。一番望ましいことは、自分の会社の人が自分たちでやりたい国に行ってやればよいのですが、なかなかそのような元気な方は多くはいません。

3. ではどうしたらよいか。一つの考えとしては、日本にいる留学生の方に日本の企業に勤めていただいて、日本でその会社のことをよく理解していただき、それから、自分の出身国に帰って活躍していただくということも素晴らしいと思います。栃木県には今 1000 人ぐらいの留学生が学んでいるそうです。その 1000 人の留学生のうち、せめて半分以上の方に栃木県内の企業に勤めていただいて、その会社のことをよく理解していただく。そして、機が熟してその会社が外国に工場を出したり、お店を出したり、販売拠点を広げたりするときには、留学生の方に母国に帰って活躍していただく、このような考え方もあります。私の個人的な希望は、各企業は栃木県で学んでいる留学生の方をもっともっと大事にさせていただいて、自分の会社に毎年 1 人以上を社員として迎え入れていただきたいということです。そして、留学生の方に自分の会社の理念や仕事のことをよく身に付けていただいて、いざというときには外国で活躍していただく、そのようなことも大事かと思います。

4. ただ、日本の中にも ODA(政府開発援助)の一貫で海外協力隊として海外へ行かれる方がたくさんいます。全国で約 2000 名の方が海外協力隊で活躍していて約 2 年間活動するそうです。その方々の中には任務を終えて日本に帰国後、就職先がなかなかない方もいらっしゃいます。県から派遣されたり、学校から派遣されたりする学校の先生や県の職員・市の職員の方には帰国後も帰る職場

がありますが、約半数の 1000 人ぐらいの方は帰国後に帰る職場がないようです。日本の企業に勤めたいと思っても就職試験がわりと難しい、また、外国で活動していると自由な発想がたくさん出てきて、それを発言すると驚かれて採用してもらえないということもあるようです。私は、海外協力隊に行ってくださった方をできれば積極的に採用して自分の会社のことをよく勉強していただき、いざ外国へ進出するときにはその方たちの協力を得る、できれば打って出る人材になっていただくことも大事なかなと思います。

5. 最近では、企業が海外協力隊へ派遣する制度もあるそうですし、また、どこの国へ行くのかについても、企業で選べる仕組みもできているようです。ですから、これから外国に工場を出したい、また、サービス産業でお店を出したい場合には、自分の会社の社員の方に海外協力隊の隊員として 2 年間ぐらい行っていただいて、その国で思う存分海外協力隊の活動をしていただく。そして、その国のことやことばをよく勉強して帰ってきてもらい、いざ自分の会社がその国に進出するときには、その方を中心に打って出るという考えもあると思います。

6. グローバルな人材を求めるときには色々な形があります。外国人の方に来ていただく、近くにいらっしゃる留学生の方に来ていただく、また、海外協力隊で活躍して日本に帰って来た方に自分の会社の社員として活躍していただくなどの形もあります。可能性はたくさんあると思いますので、会社もどこにどのような人材がいるのかをあきらめずに探したほうがよいのではないのでしょうか。

7. それにつけても、海外に行ったときには英語が一番大事です。どこの国に行っても英語が話せない限りは、なかなかよい仕事はできませんので、英語だけは勉強したほうがよいと思います。また、英語だけではなくて、その国のことばも身に付けたほうがよいと思います。身に付けたほうがよいとよく言われるのは、フランス語や中国語、スペイン語です。中国語ができれば通じるころはたくさんありますし、アフリカなどは多くの国でフランス語を使っています。また、南米などはスペイン語を使う国がたくさんあります。ですから、英語のほかに中国語とフランス語、スペイン語の 3 つと、自分の関心のあることについて勉強することも大事だと思います。どこで勉強するのかにつきましては、色々な語学学校や NHK ラジオ講座もたくさんありますので、そのような形で勉強するのもよいと思います。また、放送大学ではテキストを買えば誰でも勉強できますし、科目等履修生になれば放送大学で 1 つのことばを勉強することもできます。ですから、勉強するチャンスは山ほどあります。ぜひ、英語のほかにいくつかのことばの勉強にも挑戦していただければと思います。私が一番お勧めするのは、NHK ラジオの語学講座です。毎月 18 日に発売のテキストは 400 円くらいで買えます。放送の前月のテキストを買い、CD も活用しながら 10 日あまり徹底的に予習して、放送を毎日熱心に聴き復習を確実に行えば、英語以外の言語でも半年で基礎が学べます。

8. 今日は、これから求められる人材、グローバル人材についてお話をさせていただきました。

— 2013 年 2 月 23 日追記・改訂 林明夫 —